

岩手初の快挙！上野中学校吹奏楽部

「上中サウンド」で全国大会

金賞

上野中学校吹奏楽部が快挙を成し遂げました。10月20日、愛知県の名古屋国際会議場で開催された第66回全日本吹奏楽コンクール(朝日新聞社主催)全国大会で、全部門を通じ岩手県勢初の金賞を受賞。全国トップレベルとなった「上中サウンド」の秘密を伺いました。



「ゴールド・金賞」。長年の夢が叶った瞬間でした。

同校吹奏楽部が出場した全日本吹奏楽コンクールは、「吹奏楽の甲子園」とも言われています。

中学生から社会人までの部門がある同コンクールは、地区大会、都道府県大会、支部大会東北大会を経て全国大会へと進みます。各大会の金賞獲得者の中でさらに選ばれた団体のみが次の大会に出場できるシビアな大会です。

吹奏楽+オーケストラ

岩手県勢は全部門を通じ、全国大会で金賞を受賞したことがありませんでした。「岩手のレベルは低い…」長年全国各地からそう思われていた岩手県の吹奏楽が、ついに全国区となったのです。

吹奏楽は、バイオリンなどの弦楽器を主体とするオーケストラとは異なり、管楽器を主体に構成される音楽のことです。クラリネット・フルート・サクソフーンなどの木管楽器

課題曲と自由曲

同コンクールでは、課題曲決められた曲の中から1曲を選択し自由曲を12分以内に演奏します。本年度同校が選んだ課題曲「吹奏楽のための『ワルツ』」(高昌師作曲)は、柔らかな音色で聞く人を包み込むような曲。一方で自由曲「交響曲『ワインダーク・シー』より」(マッキー作曲)は、金管楽器が荒々

器、トランペット・トロンボーン・チューバなどの金管楽器、マリンバ・ティンパニなどの打楽器など、さまざまな楽器で構成されます。市内でも小・中学校、高等学校、社会人など多くの団体が活動しています。

基礎練習と他校との交流

同校では、1年生から3年生までの部員45人全員が大会に出場しています。小学校からの経験者もいますが、1年生の3分の1は初心者で、入部から3カ月ほどで地区大会に出場します。初心者が出場するのは他校も同じ。同校の強さの秘密は、いったどこにあるのでしょうか？

同校の練習は基本的に放課後の2時間行われます。大事にしているのは「音づくり」。良い音色で演奏でき

るよう、全体合奏に多くの時間を割かず基礎練習を徹底し、個々の力を上げることを大切にしています。顧問の柿沢先生は、部員一人一人に目を配り、どこでつまづいているのかを考え指導をしているといいます。さらに近年は、市内中学校の合同演奏会を行ったり、学校間の交流・情報交換を行ったりしています。

また、同校は全国大会の常連校である秋田県秋田市立山王中学校や宮城県聖ウルスラ学院英智高等学校と合同練習をし、指導方法・練習方法などで刺激を受けているといいます。自由曲「ワインダーク・シー」は同じ

く常連校である北海道北斗市立上磯中学校との交流で演奏を聴いたことがきっかけとなり、部員の総意で選ばれました。これらの活動・練習が「上中サウンド」をつくりあげ、金賞の受賞につながったのです。



感謝の気持ちでいっぱい

「ゴールド・金賞」と聞いた瞬間はびっくりしました。私たちの力だけでは金賞は取れませんでした。伝統を築いてくれた先輩方や、支えてくれた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。後輩のみんなも目標を高く持って、あきらめず頑張っていてほしいです。

Interview

吹奏楽が盛り上がりしてほしい



指導方法などで悩むこともありましたが、サポートしてくれる生徒の父母や地域の皆さんをはじめ、市内の指導者仲間たちに取らせてもらった金賞だと思っています。吹奏楽や音楽って元気が出ます。岩手の吹奏楽がもっと盛り上がりつつほしいですね。

■上野中学校吹奏楽部  
1983年創部。2009年に東北大会に初出場。翌年、現顧問である柿沢香織先生が赴任。東北大会出場の常連校となり、2015年全国大会へ。そして今回3度目の全国大会出場で悲願の金賞をつかむ。